

NEWSLETTER

CONTENTS

TOPICS

- 1 工学進路選択支援イベント モノづくりチャレンジ
- 2 第11期女性技術者リーダー養成塾と卒業生フォローアップ講座の開催
- 3 NITech CAN 研究力向上セミナー・第2回FD研究会「研究室のマネジメント」
- 4 スウェーデン王立工科大学 Equality Office・InspireLabと学術交流
- 5 工学の扉を開こう 新動画公開
- 6 2025年度「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」授賞式～受賞者の声～

COLUMN

電気・機械工学科 准教授 牛島達夫さんの読書案内
「他者を感じる『やさしいヒト』へ」第5回

TOPIC

1

工学進路選択支援イベント モノづくりチャレンジ

「第8回 3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」

2025年12月20日(土)、3D CAD経験者を対象に「モノづくりチャレンジ:3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」を開催しました。アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏(本学OG)を講師に迎え、本学の女子学生7名がサポートを務める中、中学1年生から高校2年生までの18名が、3Dプリンターを活用したものづくりを体験しました。

イベント前半に行われた野田氏による講義では、3D CAD基本操作の復習や応用的な操作の習得に取り組みました。後半では、事前に考えたデッサンをもとに、受講生が各自で作品の設計を行いました。前回よりレベルアップしたいと挑んだオリジナルグッズ制作は、いざ始めてみると苦戦するところもありましたが、講師やサポーターのアドバイスを受けて、全員が粘り強く取り組み、作品を完成させました。

イベント終了後のアンケートでは、「前回よりも難しいことをできるようになって、凄くうれしいです。このような体験をまたしたいです」、「以前は工学について興味がなかったのですが、このような体験を通して少しずつ興味もわいてきて、将来の候補としても考えていきたいと思います」といった感想が寄せられました。



野田華子氏



「第5回 プログラミング体験講座：マイクラフトで花火と屋台を作ろう！」

2026年3月20日(金・祝)、小学4年生から中学3年生の女子児童・生徒を対象とした「モノづくりチャレンジ 第5回プログラミング体験講座」を開催しました。株式会社プロキッズを講師に迎え、小学生対象の午前の部に20名、中学生対象の午後の部に9名が参加し、マイクラフトを使った打ち上げ花火の仕掛け作りと屋台制作に挑戦しました。

講座の前半では、プログラミングによる回路設計や建築の基礎的な方法を学び、後半はグループで協力して花火大会の会場づくりに取り組みました。操作に迷った際には本学女子学生のサポーターに相談しながら、受講生は想像力豊かにものづくりを楽しみました。

イベント終了後には「自分でプログラミングをしてキャラクターを操作することがすごく楽しかったです」、「難しいこともあったけれど体験に参加して良かったなと思いました。工学に興味を持ちました。」といった感想が寄せられました。



TOPIC 2

第11期女性技術者リーダー養成塾と
卒塾生フォローアップ講座の開催

「第11期女性技術者リーダー養成塾」

「名古屋工業大学女性技術者リーダー養成塾」は、製造業の現場で働く女性技術者を対象に、長期的なキャリア形成を見据えた学びの場を提供することを目的としています。

2025年9月5日(金)に第11期入塾式を行い、東海地方を中心とする20社より22名の塾生を迎えました。

9月30日(火)の第2回講座では、「プロジェクト・マネジメント」「コミュニケーションスキル」「ものづくりの安全性」をテーマに、課題解決や新しい価値の創造に必要な視点やスキルを学び、グループワークを通じて実践的な理解を深めました。

10月15日(水)の第3回講座では、「品質管理」「マーケティング」「リーダーシップ」をテーマとして、品質課題の原因追及の考え方や市場分析の方法、自分らしさを活かしたリーダーシップについて学びました。受講生同士の交流も活発に行われ、新たなつながりを得る機会となりました。

10月29日(水)の第4回講座では、「知財活用」と「チームビルディング」をテーマに、知的財産の戦略的活用方法や、成果を引き出す組織運営・コミュニケーションの在り方について理解を深めました。実践的なグループワークでは、チームの力を最大限に発揮するための考え方を学びました。

11月12日(水)の卒塾式では、修了証授与にあわせて、受講生一人ひとりが「リーダーになるための行動宣言」と題した1分間スピーチを行いました。その後、西岡慶子塾長より、今後の社会で求められる人材像や仕事との向き合い方について講演が行われました。

卒塾生は、「行動宣言を考え発表することで、自分の目標や理想のリーダー像を見つめ直す良い機会となった」「このご縁を大切にしながら、目指すリーダー像に近づけるよう日々努力したい」と語りました。



西岡慶子塾長



「女性技術者リーダー養成塾 卒塾生フォローアップ講座」

昨年度に引き続き、第1期から第11期までの女性技術者リーダー養成塾卒塾生を対象とした「フォローアップ講座」を開催しました。

2025年12月5日(金)に第1回講座、2026年2月2日(月)に第2回講座を行い、延べ14社から16名の女性技術者が参加しました。

第1回講座の午前は、伊藤洋介准教授による「ものづくりにおける知財活用の意義」の講義を実施し、特許法の成立過程や国・産業界における特許の重要性、知的財産権の種類と保護範囲について理解を深めました。

午後は、NTTプレジジョンメディシン株式会社新宅亮子氏による事業構想ワークショップ「Small step, Big world. ～ちょっとの一步で、世界は変わる～」が行われ、日常の小さな問題を起点とした事業を考えるワークに取り組みました。最後は一人ずつ事業案を発表し、受講生は新宅氏からフィードバックを受けながら、アイデアを具体化する手法を実践的に学びました。

第2回講座の午前は、鬼木利瑛氏による「リーダーシップの実践からキャリアビジョンを再構築しよう」が行われました。卒塾後の行動を振り返りつつ、「キャリア・アンカー」を用いた自己理解ワークに取り組みました。受講生は自身の価値観や強みを再確認しながら今後のキャリアビジョンを改めて整理しました。

午後は、株式会社イノベスト代表取締役松岡洋佑氏による「権限によらないリーダーシップ」が行われました。「情報分有」と「質問力」に関する二つのワークを通じて、効果的なフィードバックや思考の幅を広げる質問の方法を学び、リーダーシップを「相互作用を設計する力」として捉えるという新たな視点を得る機会となりました。



TOPIC 3

第2回FD研究会・NITech CAN研究力向上セミナー
「研究室のマネジメント」

2025年12月25日(木)、第2回FD研究会・NITech CAN研究力向上セミナー「研究室のマネジメント」を、工学教育総合センターとダイバーシティ推進センターの共催で教員を対象に開催しました。

今年度は講師に生命・応用化学科の中村修一教授をお迎えし、研究室内でのコミュニケーションの取り方や学生指導のポイントなど、日々の研究室運営で自身が心掛けている点についてご紹介いただきました。

講演後に行われた質疑応答では、「指導とハラスメントの線引き」や「スタッフ間での価値観の共有法」といった実務に直結する質問がたくさん寄せられ、参加者にとって多くの気づきを得られる時間となりました。

当日には56名が参加し、後日1週間設けられたオンデマンドでの視聴期間には、125名が視聴しました。参加者からは、「学生への対応に課題意識があったが、根本のところでの考え方が勉強になった」、「名工大全体のアクティビティを上げるためには、各々の研究室の取り組みと他研究室との相互作用が重要であると再認識しました」といった感想が寄せられました。



TOPIC 4

スウェーデン王立工科大学
Equality Office・Inspire Labと学術交流

ダイバーシティ推進センターの加野泉准教授は、3月5日から9日にスウェーデン王立工科大学 (KTH) を訪問し、大学の平等推進組織である Equality Office およびインクルーシブ・テクノロジーの研究拠点 Inspire Lab の関係者と学術交流を行いました。

Equality Office との意見交換では、KTHにおけるジェンダー平等・多様性・平等な条件 (JML) の推進体制や最新データ、制度環境について説明を受けました。KTH では JML を採用・昇進、教育研究のフォローアップ、学生生活など大学の中核プロセスに統合し、制度と文化の両面から持続的な改善を進めています。学生の女性比率は約35%、教授に占める女性割合は約24%と長期的には改善が見られる一方、STEM分野における女性比率の伸び悩みが課題として共有されました。また、日本の大学における取り組みや制度との比較についても意見交換が行われました。

Inspire Labでは、3月8日の国際女性デーにちなんでブラックファストセミナーが2回開催されました。マリンスポーツの包摂的な環境実現をテーマとした「Sailing toward Inclusion」と、より包摂的なコミュニケーションのあり方を探る研究「Listen Up!」が紹介され、ジェンダーや多様性の視点を取り入れる科学技術「インクルーシブ・テクノロジー」研究の広がりが共有されました。

今回の意見交換では、ジェンダー視点を取り入れた技術開発の可能性について議論が行われました。加野准教授からは、ジェンダー視点を取り入れた日本の製造業の現場の改善 (Kaizen) 事例が紹介され、包摂的な設計と作業環境改善の観点から活発な意見交換が行われました。



TOPIC 5

工学の扉を開こう 新動画を公開

女子中高生工学進路支援サイト「工学の扉を開こう」では、女子中高生に工学部での学びやその魅力を伝え、工学分野への関心を高めてもらうことを目的として動画を公開しています。

2026年2月に公開した新動画では、情報工学科の中井彩乃助教 (4月より准教授) にインタビューを行い、ご自身の研究内容や情報工学に興味を持ったきっかけをお話いただくとともに、工学を学ぶ学生やこれから進路を考える中高生に向けてメッセージをいただきました。

本サイトは、今後も継続してコンテンツを充実させ、工学の幅広い可能性を伝えていきます。



TOPIC 6

2025年度
第12回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」授賞式

第12回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」は、中井彩乃助教（情報工学科 ネットワーク分野）が受賞しました。10月28日（火）に授賞式が行われ、小畑誠学長より表彰状、トロフィー、副賞が授与されました。

第12回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」 受賞者の声

中井彩乃助教（情報工学科 ネットワーク分野）

この度はこのような素晴らしい賞を頂戴し、大変光栄に思います。選考に携わってくださった皆様、日頃からサポートしていただいている研究室代表の和田山正先生や研究室メンバー、業務上のご配慮をしてくださっている大学関係者の皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



集合写真

私はこれまで、信号処理・機械学習・無線通信の融合分野の研究に取り組んでまいりました。数式上の試行錯誤を計算機で検証するという、決して派手ではない研究手法ですが、そのプロセスを面白く感じながら日々を過ごしています。2021年12月より本学に赴任し、また2023年に出産し、研究者としても親としてもまだ初心者ですが、幸いながらも楽しくやることができています。面白く、楽しく研究と育児に取り組む姿を示していくことが、やがて未来の研究者育成につながると信じています。ゆくゆくは工学全体への還元・貢献が果たせるよう、これからも精進してまいります。



電気・機械工学科 准教授
牛島達夫さんの

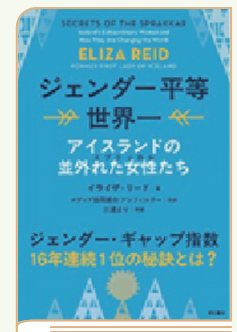
読書案内 他者を感じる「やさしいヒト」へ

第5回

3月8日は国際女性デー。1975年国際女性年に提唱されました。そして昨年は国際女性年50周年でした。今回紹介する本はイライザ・リード著「ジェンダー平等世界—アイスランドの並外れた女性たち」です。アイスランドの各分野で活躍する女性たちのインタビューをまとめたものです。アイスランドはジェンダー・ギャップ指数で2009年から連続1位の国です（日本118位）。ジェンダー問題はもはや政治問題ではなく、いかに最良の形で実現するかに力が注がれています。国会議員はクォータ制を導入していないにも拘わらずほぼ同数を実現しており、多くの女性が要職に就いています。それでもなお、女性の平均年収は男性の70%、大企業のCEOには女性がほとんどいないなど、ジェンダー平等が実現していないことを認め、女性の活躍を更に後押ししています。人種・移民・障がい者・性自認との交差性も見逃さず、移民や性的マイノリティにも寛容な国となっています。

国際女性年元年、アイスランド女性たちは「勇気を出す！できる！絶対やる！」という強い意志で「女性の休日」というストライキを決行しました。アイスランド女性の約90%が参加しました。これを機に女性の地位が一気に向上し、5年後には選挙で選ばれた世界初の女性の国家元首が誕生しました。現在のアイスランド人は、こうした女性たちを祖母や母というロールモデルに持ち、国を動かしているのです。

本書に通底することは、ジェンダー平等実現は全ての人のためになるということです。ジェンダー平等実現は決してゼロサムゲームではありません。ファラデーは「ろうそくの科学」の講義の結びに、科学の力によって周囲の人を照らすような者になりなさいと言っています。ろうそくの火を照らした先には、闇から、つまり私たちがいないものとしてきた中から、女性の、移民の、障がい者の、性的マイノリティのろうそくが立ち現れてきて、それにろうそくの火を点し分かち合っただけでよいのです。それこそが本学の「心で工学」の心髄であると、小生は思うのです。



イライザ・リード 著
メディア協同組合 アンフィルター 監訳
三浦 まり 解説
明石書店（2025年10月24日）、352頁